

登録から5年。 西港を良くしたい。 それぞれの想いの原点——。

登録からこれまで

世界遺産は、登録されて終わり——ではありません。三角西港では、世界遺産を守るいろいろな取り組みが行われています。これまでボランティアアだけだった観光ガイドを組織化。事前予約制の有料化にすることで質を向上。世界遺産と三角西港の情報を確実に伝えることのできるガイドを育成しています。地域住民も自発的に駐車場整理などの環境整備を行っています。

これらの甲斐もあって、登録年には注目度も高まり、来訪者数が前年比1.5倍に増えました。しかし、翌年の4月に熊本地震が発生。来訪者が激減し、現在は登録直後の5割ほどに。それでも、年間25万人が訪れています。

西港には来訪者がいない日はありません。紹介する7組に代表されるたくさんの人々が自ら考え動いた取り組みの上に、今の西港があります。それはもっと西港を良くしたいという共通の思いから始まっています。



宇城市観光物産協会
藏田 旭 さん

多くの人々が楽しめる仕組みづくりを

栈橋の活用やキッチンカーの出店など、立ち寄った人がより長い時間滞在してもらえるものをもっと増やしていきたいですね。手続きが煩雑な西港施設の借用申請を、協会が窓口になることで多くの人々が借りやすくなるようにできないかと検討しています。

三角西港おもてなし隊

木原 勝 さん(右)
田川 圭一郎 さん

西港をもっと盛り上げていきたい



訪れた人への地域の歴史ガイドや春・秋の花植え、さまざまなイベントなど地域活性化の活動をしています。世界遺産になったときは、観光客が多く、警備を頑張ったものです。月1回の西港会議では、地域のためにできることをみんなで考えています。



▲毎年8月には、埠頭を作った人たちの供養式を開催

▼昨年の様子を菅原さんが絵日記に記しました



若本 悠聖さん 高本 修吾さん
佐藤 李乃さん 菅原 琉花さん

三角小学校 5年生

自慢の西港をもっと知ってほしいです

三角小では3~6年生で西港の学習をしています。私たち5年生は、昨年「西港クリーン大作戦」を行い、地域の人や観光客の皆さんに喜んでいただきました。自慢の「三角西港」を多くの人に知ってもらえるように、もっともっと勉強していきたいです。



物産館ムルドルハウス
(肴桜屋)
藤本 楓 さん

きれいな景色を見にお越しください

お客さんの視線を意識して商品の配置や管理をしています。新しくなったトイレも使う人の立場に立って清掃します。幼い頃は近くに住んでいて、西港でよく過ごしていました。世界遺産になってよりきれいな環境が保たれ、景色で心が和みます。



三角町振興(株)
谷口 亨 さん

お客さまの「きれいですねー」が一番の評価です

子どもたちが芝生の上を走り回れるような心地良い空間づくりを意識して環境整備を行っています。自然豊かな西港で、石積み埠頭にあるベンチに腰掛け、景色を眺めスナメリを探したり夕日を見たりとゆったりとした時間を過ごしていただきたいですね。

西港行政区長
西港1区 積 章洋 さん(右)
西港2区 中野 茂文 さん



西港でいい思い出を残してほしい

地域は高齢化が進んでいますが、西港おもてなし隊が行うイベントに協力し、盛り上げようと取り組んでいます。三角はお客さんが来たらいつでも案内する風土があります。区民で行うバンド演奏などで、癒やしの時間を過ごしてもらいたいですね。

三角西港ファン倶楽部
三角西港観光ガイド
齊藤 万芳 さん



西港を守りながら活用していく

登録の時はワーッと盛り上がってうれしかったですね。世界遺産は歴史的に守るべきものと活用するものをバランス良く持たないといけません。今後はホテルなどにガイドのパンフレットを置き、広いネットワークで観光をつなげたいと思っています。